

モモせん孔細菌病情報第1号

平成30年8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

モモせん孔細菌病の秋季防除を実施して次作の越冬源量を減らしましょう。

1 発生状況

7月下旬に行った巡回調査（18 ほ場調査）において、発病葉率は12.1%（平年7.1%、前年3.8%）で、過去10年と比較して2番目に高い状況でした。

7月上旬に風を伴った降雨が連続してあったことが、発生を助長したと考えられます。

2 防除対策

- (1) 本病原菌は、新梢の枝病斑（夏型枝病斑、図1）から風雨により飛散して落葉痕等から侵入し、越冬します。これが、翌春に春型枝病斑を形成し、次作の重要な伝染源となります（図2）。そのため、夏型枝病斑は見つけ次第、除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分しましょう。
- (2) 表を参考に収穫後の秋季防除を実施して、越冬伝染源量を減少させましょう。発生の多いほ場では、9月から10月にかけて、ICボルドー412を2週間間隔で計3回散布しましょう。また、台風等で落葉した痕に病原菌が感染するので、台風の通過前に予防散布を実施しましょう。
- (3) 防風ネットの設置、補修を行うなど防風対策を実施しましょう。
- (4) 薬剤によっては、高温、多湿時の散布で薬害を生じる恐れがあるため、注意しましょう。
- (5) 収穫中のほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、収穫前日数に注意しましょう。



図1 夏型枝病斑

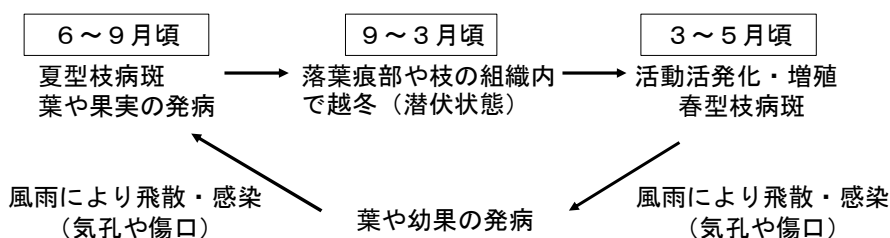


図2 モモせん孔細菌病の伝染環

表 モモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分	使用時期	FRAC コード
ICボルドー412	銅	-	M01
スターナ水和剤	オキシソリニック酸	収穫7日前まで	31
チオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	チウラム	収穫7日前まで	M03
バリダシン液剤5	バリダマイシン	収穫7日前まで	U18
デランフロアブル	ジチアノン	収穫7日前まで	M09
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	収穫21日前まで	41

オキシテトラサイクリンを含む農薬には、マイコシールドの他にアグリマイシン-100があるので、総使用回数に注意しましょう。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRACコードの詳細は、<http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/code.html> を御覧ください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。